

令和7年度 第1回先進事例見学会の概要

高松市中央卸売市場青果棟

高松青果(株)

【開催日：令和7年8月5日(火) / 参加人数：30名】

高松市中央卸売市場は、1967年の開設以来、生活に密着した生鮮食料品を適正な価格で安定して供給する役割を果たしています。流通の仕組みや価値観が変わってきた近年の状況を受け、新青果棟は「①適切な温度管理ができる閉鎖型施設」「②場内物流の効率化を図るため、合理的で利便性の高い動線計画」「③敷地内の建物を屋根で接続し、天候に左右されないレイアウト」を基本コンセプトに2022年（令和4年）から建設が始まり、2025年（令和7年）4月7日より移転新設した形で営業を開始しております。

また、高松市中央卸売市場の卸会社である高松青果(株)は、社員のIT環境を充実させており、基幹（販売管理）システム、データ分析プラットフォーム、人事労務クラウドソフト等を導入・活用し、DXの推進を図っています。

今般、高松市中央卸売市場の開設者である高松市様、高松市中央卸売市場に入場する青果卸売会社である高松青果(株)様のご厚意により、会員向けに「高松市中央卸売市場青果棟」を見学させていただくとともに、「高松青果(株)のDX推進の取組」をご紹介いただきました。その概要について以下にご報告いたします。

◆ 高松市中央卸売市場に関して

高松市中央卸売市場は、昭和42年3月、市民生活に密着した生鮮食料品等の適正な価格形成と安定的供給を図るため、青果物・水産物およびこれらの加工品など生鮮食料品の流通拠点として、全国で25番目の中央卸売市場として業務を開始しました。

その後、都市化の進展に伴う消費人口の増加や嗜好の多様化による取扱量の増大に対応して、国の第2次卸売市場整備計画に基づき市場の拡張整備を行い、昭和56年3月に旧青果棟と現水産棟の施設が完成しました。さらに、昭和60年4月には花きの安定供給に対応するため、国の第3次卸売市場整備計画に基づき、全国で9番目の花き部を開設して、総合的基幹市場としての機能を発揮しています（花き部は平成27年4月1日に公設地方卸売市場に転換）。

高松市は、平成27年12月に「高松市中央卸売市場再整備 基本構想・基本計画」をまとめ、その中で青果棟の移転整備による再整備案を策定し、計画に沿って令和7年4月から新設された青果棟として開業しています。

高松市中央卸売市場青果棟は、高松駅から車で10分、高松自動車道高松中央インターチェンジから車で15分程度の場所に位置し、物流拠点としては好立地となっています。

■ 高松市中央卸売市場青果棟 概要

- ・所在地 : 香川県高松市朝日町三丁目 8 番 25 号
- ・開設者 : 高松市
- ・敷地面積 : 50,470 m²
- ・延べ床面積 : 20,412 m²



(航空写真)

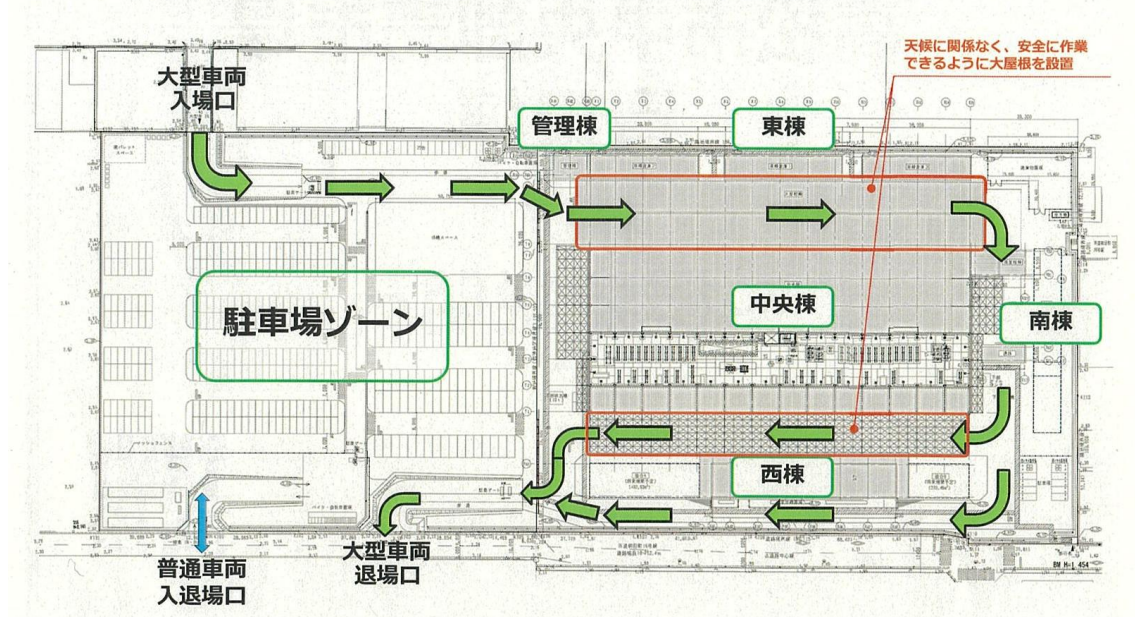


(外観)

(高松市 HP 「高松市中央卸売市場青果棟建設工事 進捗状況」 より)

配置図及び車両動線計画

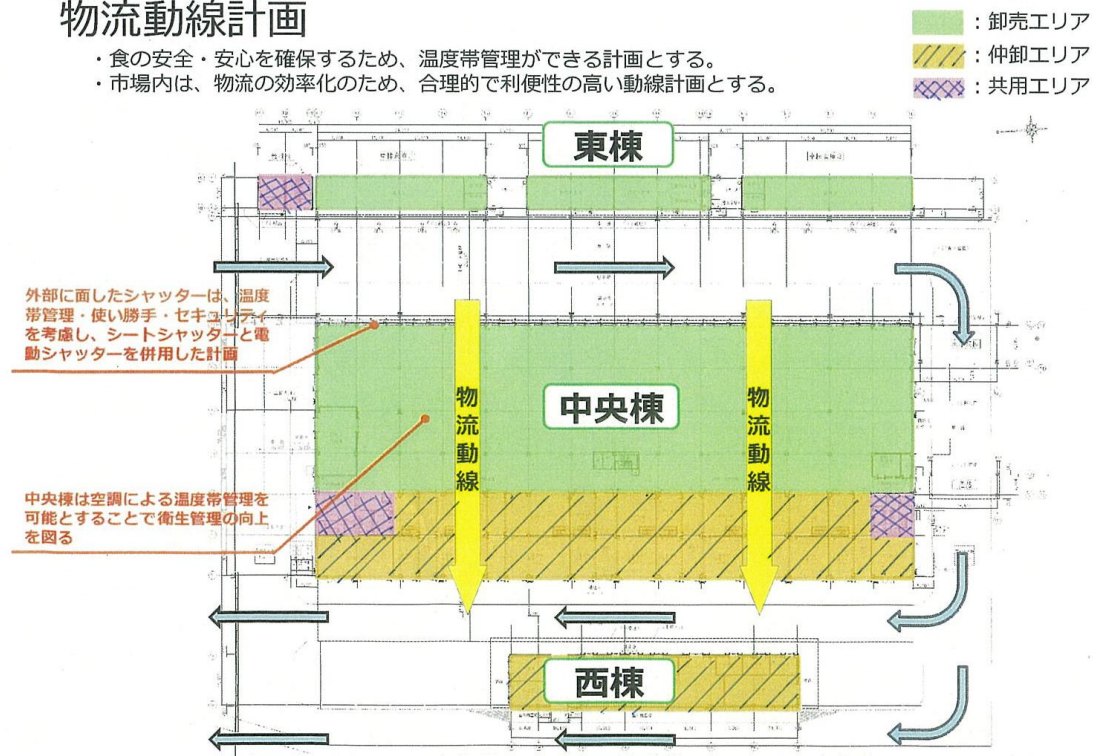
- ・市場内は一方通行の安全な動線と物流の効率化を図った計画とする。
- ・東棟、中央棟、西棟の3棟を屋根で接続し、雨天時も効率的に作業できる計画とする。



物流動線計画

物流動線計画

- ・食の安全・安心を確保するため、温度帯管理ができる計画とする。
- ・市場内は、物流の効率化のため、合理的で利便性の高い動線計画とする。



今回の施設整備では、基本設計時のコンセプトとして、『「瀬戸内の食の発信拠点」を目指して』を掲げており、「瀬戸内の食の発信拠点」として市民及び市場関係者等のニーズを集約し、消費者に安全・安心・安定的な生鮮食料品を効率的に供給でき、更に、機能的で持続可能な新しい市場として「物流の効率化」と「温度帯管理」を図った市場としています。

なお、事業費としては、約 100 億円となっています。

◆ 見学会実施状況

【挨拶及び高松市中央卸売市場青果棟の概要説明】

はじめに生鮮取引電子化推進協議会の勇崎会長（札幌みらい中央青果(株) 代表取締役会長）から開会及び高松市中央卸売市場関係者の方々への謝辞が述べられ、続いて高松市中央卸売市場の高尾市場長からご挨拶を頂き、市場管理課施設整備室の上原室長補佐から高松市中央卸売市場青果棟に関する説明及び質疑応答がありました。

上原室長補佐からは、青果棟の整備計画及び施設概要等の説明を頂き、車両通行部には大屋根を設置して荷下ろしなど天候に左右されない施設となっていること、閉鎖型施設のためコールドチェーンを適切に管理し安全な青果物流を担える機能を備えていること、場内

の動線を整理（商用車は一方通行、荷受場→卸売場→仲卸と東から西への物流導線等）したこと、高松 IC やフェリー乗り場にも隣接し四国の物流拠点として期待されていること、等のお話がありました。

見学参加者からは、施設整備後の使用料に関して（旧市場に比べて約 1.7 倍、但し激変緩和措置が 3 年間）等の質問がありました。



（勇崎会長の挨拶）



（高尾市場長の挨拶）



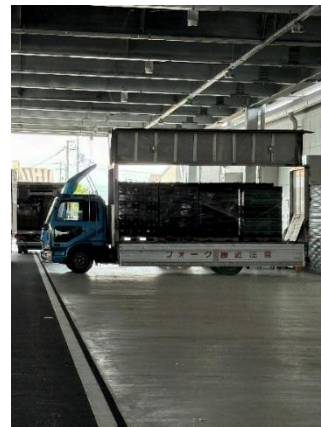
（上原室長補佐による説明）



（概要説明の様子）

【現場見学】

高松市（開設者）及び高松青果㈱の皆さまのご案内の下、高松市中央卸売市場青果部の見学を行いました。閉鎖型で定温化された施設、配慮された物流動線等を丁寧にご案内していただき、温度管理の工夫や機能配置の考え方等を勉強させていただきました。



(共用通路)



(卸売場)



(仲卸店舗～仲卸用通路～西棟)

【セミナー ／ 高松青果㈱の DX 推進の取組】

市場施設見学後、高松青果㈱より『「人のため」の DX 高松青果の挑戦』と題して、高松青果㈱の DX 推進の取組についてご説明いただきました。

まずは、高松青果㈱の齊藤代表取締役社長からご挨拶を頂き、食文化と共に歩む高松青果という夢を掲げ、そこへ近づくための手段として様々な業務改革に取り組んできたということ、団塊の世代で先輩が抜けていく中、営業の武器としてデータを持たせたこと、卸売会社は休日出勤や拘束時間が長く人材が定着しないという常識に対応した仕組みを作る必要があること等から、DX の推進を進めてきた旨をご案内頂きました。

続いて、平本 DX 推進部長より高松青果㈱が取り組んできた DX 推進に関して説明を頂きました。

高松青果㈱で DX 推進部に関しては、

- ① 市場だから通用しない、人材確保に苦戦
- ② 新しい技術 → AI 等を利用しない選択はない

③ 人が主役になる → 人の価値をより引き出すことが可能(人にしかできない仕事)に集中

④ 人がもっと輝ける環境 → 会社の未来を創る
といった目的に即して設置されたとのこと。

取組内容としては、下記の内容をパワーポイントを活用してわかりやすく説明していただきました。

(1) 「IT 導入」と「資格取得」

・「IT 導入」と「資格取得」は両輪として、相乗効果を出していかないといけない 等

(2) 社内改革としての DX

・導入したシステムでも先を見据えて変更していく、システム変更は未来への投資で当たり前のことである 等

(3) 基幹システムと共創のシステム

・他社(丸果石川中央青果㈱)と共有化し、開発コストを低減、効率化 等

(4) 現場とともに進める DX

・nimaru(クラウド形式による集出荷等のシステム)を導入し、運営会社の㈱kikitoriとの定例会を実施 等

(5) 戦略立案につながる「武器」

・利益管理を組織の軸にし、「分析を通じた利益管理の必要性を共有」する、BI ツール(企業が持つ膨大なビッグデータを分析・見える化し、価値ある情報に変換し、経営や現場の意思決定を加速させるためのソフトウェア)である「データ分析プラットフォーム KI」(キーエンス)を導入し 30 分(実際は 15 分)単位でデータ更新しながら営業戦略を立てる 等

質疑応答では、高松青果㈱の齊藤社長、東原常務、平本部長から、見学参加者の質問にも丁寧にご回答いただきました。

一例をあげると、「各営業担当者へのデータ(数字の見える化)のフィードバックはどうしているのか?」という質問に対し、「毎日 12:30 からグループミーティングを行っており、数字を見ながら 30 分間協議をしている。先輩と新人で意見を出し合い、データを見ながら翌日どうするかを検討している。忙しくても全グループ行っている」という回答を頂きました。



(受講風景)



(齊藤社長)



(東原常務と平本部長)

今回の高松市中央卸売市場青果棟の見学では、コールドチェーンと物流動線に配慮した施設配置計画を勉強させていただきました。また高松青果㈱のセミナーでは、DX 推進を行うためのコンセプト及びそれに伴う営業改革の取り組みを学ばせていただきました。今回の先進事例見学会では、ハード面、ソフト面共に学べる内容が多く、参加した協議会員の皆さまの知見向上に役立ったと思っております。

なお、末筆ながら、今回の先進事例見学会にご協力いただきました高松市及び高松青果㈱の皆さまに対して、この紙面を借りて心より御礼申し上げます。